献　辞

児玉啓介教授は出水市立或いは鹿児島県立高等学校教諭、鹿児島女子短期大学助教授を経て、昭和48年4月に本学に赴任され、平成12年3月に定年御退職されるまでの27年の長い期間に亘り、本学の外国語、主として英語の教育にたずさわって来られました。その間、先生の持ち前のウイットに富む英語教育と、先生の深い蘊蓄に基づく教育方法は、多くの学生を魅了し、外国の大学に留学して、更に英語を、そして外国の文化を学びたいという学生を輩出することになりました。

児玉先生の御専門は英語学で、特に18世紀前半の小説家であり劇作家で「英国小説の父」と呼ばれたHenry Fielding (1707-54) の代表的作品、「Joseph Andrews」や大作「The History of Tom Jones, a Foundling」を含めて7編について論文を書かれています。英国小説の父と呼ばれる作家の作品を研究の対象に取り上げる研究者は、英国内外を合わせると極めて多いのではないかと思います。その中で、児玉先生がFieldingを研究対象として取り上げられたことは、先生の研究に対する熱い情熱を示すものと思います。また、最終講義の後に行われた送別会では、多くの卒業生が参加し、先生の教育の成果をこの目で確認することになりました。

児玉先生は本学第二部の部長（昭和57年－59年）及び学生部長（昭和63年－平成2年）を勧められ、教育だけでなく、本学の運営にも携わって頂き、その時々の本学の教育改革にも力を貸して頂きました。

御退職一年前になって、定期検診で先生の病変が発見され、幸いにして早期発見のため健康を御回復になりましたが、私達に対して健康の大切さを力説され、定期検診を侮らず受診するよう諭された言葉は、私どもの心に深く残りました。

これから先の先生の長い人生の御健康と、長年にわたるFielding研究の完成とを、残された一同心からお祈り申し上げます。

平成12年5月

学 長　田 川　日出夫